令和３年度中山間ふるさと保全委員会開催結果

１　開催日時

令和４年３月 28 日（月）10 時 00 分から 12 時 00 分

２　場所

ホテル ルビノ京都堀川　３階「アムール」

３　出席委員

星野委員長、中村委員、深町委員、安本委員、湯浅委員

４　議題

（１）令和３年度活動報告（基金活動、参加型住民づくり事業）
（２）令和３年度新規取組説明・実績報告
（３）令和４年度活動計画について
（４）基金の保有状況について

５　概要（結果及び主な意見）

（１）令和３年度活動報告について

＜質疑応答及び意見＞

Ｑ：　南丹広域振興局の教育実践パートナーシップについて。府立農芸高校との連携では、将来どういう就職に結びつけたいかなど、事業の目的・目標について知りたい。

Ａ：　農業土木コースに進む生徒を対象に行っている。行政などに携わってもらえればと考えている。

Ｑ：　おいしい食の応援隊の登録が半減してしまったことについて、現状を聞きたい。

Ａ：　ある地域の例では、高齢者が多くコロナ禍で地域外の人々の受け入れを控えた。特産品づくりの取組は引き続き作業は行っていくはずなので、地元に制度紹介をしていきたい。

Q：　例えばふるさと発見隊は京丹後市のみ実施された。コロナ禍において人を集めたイベントを今後も開催するということだが、他地域では工夫等されているか。

A：　本年度では小学生がワクチン接種対象外だった影響もあり、リスクを考えた上で実施できなかった。ワクチン接種や薬の開発等、コロナをとりまく情勢の変化がないと、１クラス全員を集めて移動するなどはしばらく難しいと考える。

　今後、関係人口の取り込みはテーマになると思うので、このようなイベントのあり方について検討を進めていく必要がある。

Q：　南丹広域振興局の報告にあった「地域応援組織」は地域内の団体か、それとも外側の組織か。

A：　外側の組織。地域外住民の登録者へ年間スケジュールを送付し、地域の日常生活を体験できるしくみを整えており、現在７８名ほどが登録している。他にも農家民宿の開業者が、泊まりがけの炭焼き体験なども実施している。

０：　地域外ファンづくりの次のステップや展開が期待できる。また、コロナ禍で実施していく上でのガイドラインがあると望ましい。

（２）令和３年度新規取組説明・実績報告

＜質疑応答：「むらの減築ワークショップ」について＞

Q：　集落の地域協働活動のうち、伝統行事・助け合い関連は８割で行っているのに対し、ビジネス・活性化関連は少ないという報告で、これは行政の予算の有無に関連していると思う。ビジネス・活性化関連を支援するために、予算をつけていくべきではないか。府が先導して機能的集団（＝経済活動を行う組織）を地域に生み出す政策を行ってほしい。民間とも協力し、経営感覚を大事にしながら取り組んでほしい。

A：　地域内で「しんどい」と思う活動等を減らしながら、ビジネス・活性化にも目を向けてほしい。そのために伴走支援は必要だと考えている。

Q：　ワークショップの取組は自分の地域を振り返るツールとして非常に良い。今回は地元住民が任意参加だったが、地域全員参加の方が良いか、それともリーダーシップをとってくれる方に参加いただき地域内に波及する方が良いか、参加した上での感想を聞きたい。

A：　区単位や自治会で「むらの減築」という話はなかなか受け入れられにくい。今回は興味のある方に参加いただいたが、区・自治会を抜きにして進めてい

くわけにはいかないと考える。ワークショップには任意の方が参集し、出てきた意見を区の役員に説明し理解を得ていくことが必要である。地域によって差異があることなので、市役所などと相談しながら丁寧に進めていきたい。

０：　機能的集団をビジネス的な役割だけに捉えるのではなく、地域を守っていくための組織として、自治会などの他組織とうまく関係を築いていけることを期待している。

０：　島根県の農業会議の事例では、ＲＭＯ型の地域運営を進めている。京都府においても農業会議も一緒に行っていきたい。
Ａ：　ＲＭＯも意識をしており、中間支援の体制づくりも進めていきたいのでぜひ協力をお願いしたい。

０：　中間支援組織はノウハウを持つ民間が担える可能性もある。

Ｑ：　「むらの減築」というテーマは全国的に議論されているか。
Ａ：　全国的にはまだあまり取り組まれていないと理解している。

＜質疑応答：「ラジコン草刈り機の実証調査」について＞

Ｑ：　法面の状況によって障害となるものや割合が変わってくると思うので、その情報を知りたい。
Ａ：　勾配制限がカタログ上は４５度であっても現場では４０度が限界。また排水用パイプが法面の途中に飛び出ている場合や、下の田んぼや水路との境は刈りにくい。３メートルの法面だと、下１メートル部分は作業できない。

Ｑ：　ラジコン草刈り機の対象地域などはどう考えているか。
Ａ：　例えば石積みの棚田は想定していない。ある程度整備された農地が対象になると考えている。

Ｑ：　ラジコン草刈り機の修繕などの費用について知りたい。
Ａ：　機械を使ってまだ２、３年しか経過していないため、修繕等については今後調査する必要がある。また替え刃であったり、使用方法によっては消耗も早くなるので、そのあたりも検討したい。草刈り機の使用可否を法面ごとに色分けすると効率的だと考える。

【まとめ】

・中山間地域の迫り来る危機は現実のものとなっており、今こそこの基金を活用していく時である。新規の取組・調査研究も行っているところで、引き続き大胆に活用してほしい。

・関係人口の増加は、コロナ禍やアフターコロナの都市農村交流において重要な柱となる。コロナに対して現在は個別的な対応を行っているので、ガイドラインのようなものがあると良い。

・参加型住民づくり事業では地域応援組織が形成されつつある。次のステップで活動を継続できる仕組みを今後確立していくのが望ましい。

・京都府は、「むらの減築」やラジコン草刈り機の実証実験等、興味深い新規取組を行っている。これからもこの基金を活用し、成果を見つめながら次のステージの政策の準備を行ってほしい。